

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業
 (発達障害早期支援研究事業)
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 (匝瑳市教育委員会)

1. テーマ

発達障害の可能性のある児童の実態や教育的ニーズに応じた適切な指導や支援の在り方

2. 問題意識・提案背景

匝瑳市内の小中学校では、平成 25 年度の匝瑳市特別支援連携協議会・専門家チームの会議の中で、各担任から見て学習面や行動面で、特別な支援が必要だとされる児童生徒が全体の 11%程度の割合でいると指摘されている。しかも、この割合は、年々上昇する傾向にあり、喫緊の教育課題となってきた。

こうした課題が生じる原因は、様々な教育的ニーズを持つ子供たちの増加によって、これまで培ってきた教員の経験や指導方法だけでは解決できない状況が起こっていると考え、通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある児童生徒に対する指導・支援の在り方について研究することが、これからの学校教育を推進していく上でも、またインクルーシブ教育を推進していく上でも急務と考え、研究に着手した。

研究指定校については、市内小学校の通常の学級に在籍する児童で、特別な支援を必要とする児童が、14 名 (全児童の 9.5%) いる栄小学校と 47 名 (20.5%)いる野田小学校とした。

3. 指定校について

(小学校)

指定校名：匝瑳市立栄小学校													
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級		18	1	20	1	27	1	22	1	25	1	21	1
特別支援学級	知的	0	/	2	/	2	/	1	/	6	/	1	2
	情緒	3	/	0	/	2	/	2	/	5	/	0	2
通級による指導の対象者数		2	/	2	/	2	/	0	/	2	/	1	1
		校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計	
教職員数		1	1	12	1	2	0	1	3	0	1	22	

指定校名：匝瑳市立野田小学校													
		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
		児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級		37	2	42	2	35	1	29	2	41	2	39	2
特別支援学級	知的	2	/	2	/	1	/	0	/	0	/	0	1

	情緒	0	/	1	/	5	/	1	/	1	/	3	2
	言語	0	/	2	/	0	/	0	/	0	/	0	1
通級による指導の対象者数		2	/	0	/	3	/	3	/	1	/	0	/
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教育支援員	スクールカウンセラー	その他	計		
教職員数	1	1	17	1	1	0	1	1	1	3	27		

4. 指定校における取組概要

<p>(1) 目的・目標</p> <p>通常の学級における児童生徒の持つ学習面や行動面の困難をできるだけ早い段階で見極め、個別の教育的ニーズに応じた適切な指導や支援の在り方について明らかにする。</p> <p>(2) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化</p> <p>ア. 学級全体の児童についての実態把握の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担任や発達障害支援アドバイザーの授業観察及び主に低学年を対象として定期的にMIMを実施し、結果を分析し、個々のつまずきや変容を捉えた。 <p>イ. 特定の児童についての実態把握の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発達障害の可能性のある児童の保護者との面談を実施し、必要に応じて許可を得てWISC等の検査ツールを活用して、より詳しい実態把握を行った。 <p>ウ. 情報共有の場の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員室の日常的な会話の中で児童の様々な情報をタイムリーに共有するように心がけ、学年部会や職員会議の時に全職員に情報を提供し共有を図った。 <p>エ. 幼保小の連携活動の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小の指導者間の交流を図り情報交換した。 ・生活科を核として、児童が園に行ったり、園児が小学校に来たりする年間を通じた交流活動を実施した。 <p>オ. 発達障害及びその可能性のある児童に対する保護者の理解を啓発する取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援方針の説明等による保護者との連携を図った。(面談の実施) <p>(3) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容</p> <p>ア. 授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容</p> <p>(ア) ユニバーサルデザインの考えを取り入れ、障害の有無にかかわらず全ての児童がわかる授業の構築をめざした。</p> <p>(イ) 生徒指導の機能を生かした授業の充実をめざした。</p> <p>(自己決定の場を与える、自己存在感を与える、共感的人間関係を育成する)</p> <p>《匝瑳市立栄小学校》</p> <p>算数学習を中心にユニバーサルデザインの考えを取り入れた指導方法の工夫・改善を行った。</p> <p>《匝瑳市立野田小学校》</p> <p>道徳を中心にユニバーサルデザインの考えを取り入れた授業構成の工夫や個別の配慮を明らかにする取組を行った。</p> <p>イ. 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容</p> <p>1名ずつ発達障害支援アドバイザーを配置し、ティームティーチングによる</p>
--

指導の補助及び観察を行いながら、通常の学級に在籍する特別な指導や支援を要する児童の把握を行い、保護者の同意を得て、朝自習や放課後の時間などを利用して個別の補充指導を行った。

(4) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法

ア. 授業評価アンケート等の活用による児童個々のつまずきの把握と本時の指導、支援に対する評価

- ・ 個々の児童の教育的ニーズに応じた指導となっていたかどうかの評価
- ・ 「学びにくさアンケート」などを定期的に行い、その数値の変容を見る。

イ. MIMなどの調査を定期的に行い、その変容を見る。

ウ. 特別な支援を必要とする児童生徒の毎時間の授業記録により支援内容とその状況により効果的な方法かどうかを評価し積み重ねる。

5. 主な成果

(1) 発達障害支援アドバイザーの効果的な活用

- ・ 授業中、集中力や持続力を欠いた児童に対し、個に寄り添った適切な支援が行われ、また、学習内容の理解や取り掛かりなどに支援を要する児童に対して的確な支援が行われ、円滑に授業が進められた。
- ・ 朝自習や放課後の時間を活用した個別指導により、児童の学習習慣の確立につながるとともに、この時間の達成感が一斉授業での意欲につながった。また、対象児童が「見守られている」という安心感を抱いて日常生活を送れるようになった。

(2) 発達障害の可能性のある児童の早期発見に向けた取組

- ・ 発達障害支援アドバイザーや担任の授業観察により発達障害の可能性のある児童が発見できた。
- ・ 児童の困り感を調べるチェックリストを全学年で実施して障害特性の傾向や困り感を把握した。また、その結果を日々の指導や教室環境作りに生かした。
- ・ 低学年の児童にMIMを実施することで読みに関する実態を把握することができ、早期の段階で支援にあたることができた。

(3) 児童の実態や教育的ニーズに応じた適切な指導方法の工夫・改善に向けた取組《匝瑳市立栄小学校の取組》

- ・ ユニバーサルデザインの視点として視覚化、焦点化、共有化を中心に研究を進め、特別なニーズのある児童に対する合理的配慮について具体化を図った。

《匝瑳市立野田小学校》

- ・ ユニバーサルデザインの考えを焦点化、共有化、身体表現化、個に応じた合理的配慮等と捉え、三つの環境づくり（物的環境、人的環境、時間的環境）の視点から様々な工夫を行った。

6. 今後の課題と対応

- ・ 本事業の終了に伴い、次年度（平成 28 年度）発達障害アドバイザーの役割をいかに補うか、本年度中に校内体制の整備を模索する必要がある。学習支援教員や特別

支援教育コーディネーターを後任にしたい。

- ・今後、さらにユニバーサルデザインの考えを取り入れたわかる算数学習を模索し、高学年の学力差を少しでも減少していく必要がある。そのために算数学習を研究テーマとして継続研究を進める。
- ・書く時間の短縮や書くことに対し抵抗感のある児童への負担軽減を図るために、ICT機器の更なる活用について研究を深めたい。平成 28 年度匝瑳市情報教育研修会においてタブレットの効果的な活用などで実技研修を実施する。

7. 問い合わせ先

組織名：千葉県匝瑳市

- | | |
|-------------|--|
| (1) 担当部署 | 匝瑳市教育委員会学校教育課 |
| (2) 所在地 | 千葉県匝瑳市八日市場ハ 793 番地 2 |
| (3) 電話番号 | 0479 (73) 0094 |
| (4) FAX 番号 | 0479 (72) 1117 |
| (5) メールアドレス | g-shido@sosa.lg.jp |